



「波野の伝説の地」

委員 岩下 平助

伝説 小池野の池 (市指定史跡)

小池野の池は、国道57号沿いの大字小池野字永仁田の菅原神社に隣接し、広さが約10坪、深さが約2〜3mあります。池の正面に竜の造形がまつられ、毎年9月30日には近くの人達



伝説 小池野の池

6人の腰元と警護の武士達に付き添われ、竹田、坂梨、手野、山田と行列は進んで行きました。小池の池に差し掛かった時、姫が水を飲みたくなり輿を止めたところ、姫は池に行くなり突然身を翻して飛び込み、見る見るうちに蛇身となって沈んでいきました。それに動転した腰元も、悲嘆のあまり次々に池に飛び込み、すべて大蛇になりました。武士達は、直ちに菊池の家臣が待つ車帰へ駆けつけて事の次第を伝え、引き返して小池の北山で割腹し果ててしまいました。姫と腰元の7体の大蛇は別々の池に分かれて住み、小池の七池と

が供養しています。この池の周辺には、池畑・別永仁田・内永仁田・水の下・水の上・南池尻・池尻・水の本・池日当などの水に由来する小字があり、地下水が豊富でこの地域一帯の水源地です。

小池野の池は「小池の七池(阿蘇町史第2巻324頁参照)」から続く、次のような伝説が残されています。

『今から500年前、竹田の豪族の緒方家に美しい姫君が誕生し、清夜姫と名付けられました。姫が16才を迎えた頃、菊池のお城では若君の嫁を探しており、清夜姫を見立てました。早速、阿蘇大宮司に仲介を依頼したところ、めでたく縁談はまとまり、春の終り頃に輿入れの運びとなりました。

いわれるようになりました。また、北山には武士達の墓石が残っています。その後、いつの頃からか、下野の男大蛇が小池に住む女大蛇のもとに通っているという噂が広まりました。男大蛇は黒川をさかのぼり、松ヶ鼻の往還を横切って小池の池に入り、男大蛇の通り道は雨の日は乾き、晴れた日は濡れていました。こうした噂をはばかったのか、男女の大蛇は波野の小池野の池に移り住み、夜な夜な愛をささやき合いました。』

波野村の時代に、小池野の「池」の表記が「地」と改正されましたが、この池の伝説や小字名が水に由来することを考えると「池」と表記される方が好ましいでしょう。



御沓の菅原神社

御沓みくつの由来は諸説ありますが、健甞龍命たけいわたのりみことが阿蘇を巡視の際、履物ついで(沓)を替えたところから「御沓」と呼ばれるようになりまし。現在、池の隣には菅原神社が建立されています。茶臼塚は波野地区唯一の古墳といわれていますが、発掘調査が行われていないためよく分かっていません。しかし、御沓の由来となった沓を茶臼塚に埋めたという伝説などから遺跡であったと推測されます。また、古墳時代の土器が発見されていることや地理的な状況から判断すると、大野川上流域の豪族と関係があったと考えられます。

伝説 御沓の池・茶臼塚(市指定史跡)



昭和58年頃の茶臼塚